

優良賞 題名 障害のある人達が

涌谷中学校 一年 遠藤 袈也

私が夏休みに家族と出かけていた時、道には点字ブロックがありました。私は点字ブロックは目の不自由な人のためにあることを知っていたので点字ブロックは踏まないように歩いていました。

その時、自動車が点字ブロックにはみ出ているのが見えました。もし、そのままにしていたら目の不自由な人にどんな影響がでるか心配で見ていると、ある女の人がはみ出していた自転車をなおしているところを見ました。そして思ったのは、”どうして障害のある人がもっと不自由になるのか”という事です。点字ブロックは不自由な人のために作られたのに、自転車がはみ出していたり、点字ブロックをふんでいる人がいたり、点字ブロックがある所にゴミを捨てたりする人がいたら、点字ブロックの意味がありません。ますます不自由になるばかりです。

そこで私はどうしたら不自由な人を困らせたりしないか考えました。

一つ目は、不自由な人達に意見を聞いて、その意見を生かすことです。

二つ目は、不自由な人が困っているという事を伝えるポスターを作ることです。そうすれば困っている人の思いが伝わると思えます。その二つをすれば一人一人の意識が変わって、困っている人が少しずつ少なくなると思えます。もちろんこの二つは私だけでできる事ではないけれど、大人になったら少しでも役に立っていく人になれるようにして、不自由な人や困っている人のために働く人になりたいです。

私はその夏の出来事で困っている人がいる事を知り、自分のしなければならぬ事が分かりました。

一つは、もし町で自転車が点字ブロックにはみ出していたりしたらなおしたり、ゴミが落ちていたら拾う事です。

二つ目は、大人になったら司書になるつもりですが、司書になり福祉の本の読み聞かせ会をするときに、困っている人がいる事を少しでも分かりやすく子供に教えてあげる事です。

この出来事をいかしてこれからの生活に生かし、将来につながるようにしていきたいです。